

I 研究主題

児童生徒が「できた」「わかった」と感じられる授業づくり

～学習の振り返りの充実～

II 主題設定の理由

本校では、令和3・4年度の校内研究において、各教科等を合わせた指導の充実を目指して研究に取り組んだ。各教科等を合わせた指導において、各教科等の視点を踏まえた目標を設定して指導、支援に取り組むことをとおして、児童生徒一人一人の主体的な姿につなげることができた。また、様々な視点から授業づくりをすることの重要性を再確認することができた。

令和5年度から新たな研究を進めるにあたり、取り組みたいテーマについて職員アンケートを実施した。様々な意見が挙げられたが、その中でも、「ICTを活用した授業づくり」「実態の異なる集団での授業づくり」など、授業づくりに関わる意見が多く挙げられた。それらを受け、令和5年度からの2年次研究では、これまでとは異なる視点から授業づくりに取り組むこととした。授業づくりの研究を進めるにあたり、新しいものを取り入れるのではなく、普段取り組んでいる授業の進め方や活用しているプリントの様式を再度見直すことができるような研究にしたいという意見が挙げられた。岩手県で令和2年度より取り組んでいる「確かな学力育成プロジェクト」の中で、主体的・対話的で深い学びの実現として提示されている「いわての授業づくり3つの視点」を参考にしながら研究を進めることとした。

【いわての授業づくり3つの視点】

視点1：学習の見通し

視点2：学習課題を解決するための学習活動

視点3：学習の振り返り

この3つの視点は相互に作用するものであるが、3つの視点の中からさらに1つの視点に焦点を当てることにより、より分かりやすく授業を組み立てることができるのではないかと考えた。そこで、本校では3つの視点の中から、日々の授業づくりをする上で簡略的になりがちな「学習の振り返り」に焦点を当てて研究を進めることとした。

「学習の振り返り」を充実させていく上で欠かせないものが目標設定である。教師の一方的な目標ではなく、児童生徒自身が分かって活動できる目標を設定し、その上で充実した振り返りを行う。そうすることで、児童生徒は「できた」「わかった」という達成感を感じられ、次の学習への意欲につながるのではないかと考え、本主題を設定することとした。

III 研究の目的

児童生徒自身が分かって活動できる目標設定と、それに基づく「学習の振り返り」を検討、実践することにより、児童生徒が「できた」「わかった」と感じ、次の学習への意欲につながるようにする。

IV 研究の内容

1 研究期間

2年間（令和5年度～令和6年度）

2 研究内容、方法

<1年次>

- (1) 授業における児童生徒自身の目標と教師の目標の共有を図る。
- (2) 授業の目標の設定・提示の仕方とそれに基づく学習の振り返り方法の検討をする。
- (3) 実践をとおして、PDCAサイクルによる授業改善・支援方法の充実を図る。

< 2年次 >

- (1) 1年次の研究で学習の振り返りに有効であった他学部の成果を取り入れながら、各学部・寄宿舎で計画を立て、継続して実践を行う。
- (2) 児童生徒の「できた」「わかった」の姿を明確にする。
- (3) 2年間の研究において、学習の振り返りに有効であったシートや日誌の様式等についてまとめる。
- (4) 研究のまとめ（ホームページによる研究公開）

3 推進計画

	1年次	2年次	
4月	第1回全校研究会	第1回全校研究会	
5月	全体の研究計画提案	2年次の推進計画の提案及び学部研究について	
6月	学部ごとに推進、実践	学部ごとに推進、実践	
7月	↓	↓	
8月			(高教研講演会)
9月			
10月			開かれた授業研究会
11月			(6月～11月)
12月	開かれた授業研究会	開かれた授業研究会	
1月	(9～11月)	(6月～11月)	
2月	研究のまとめ(1年次)	研究のまとめ(2年次)	
3月	第2回全校研究会	第2回全校研究会	
4月	2年次計画の検討	次年度の研究について、アンケートを実施	
5月		次年度の研究テーマについての検討	

V 各学部・寄宿舎の実践

1 小学部

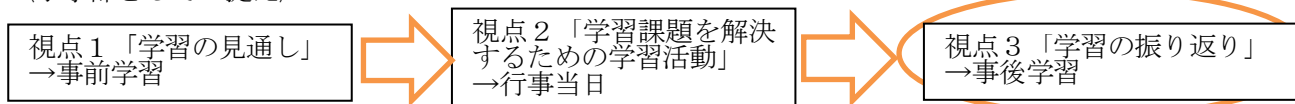
(1) 令和5年度の研究

〈小学部研究テーマ〉 生活単元学習における学習の振り返りの充実～事後学習内容の検討を通して～

ア テーマ設定の理由

全校研究の内容でも取り上げられていた「いわての授業づくり3つの視点」を、小学部では生活単元学習の行事単元に当てはめて、以下の通りに捉えることとした。

〈小学部としての捉え〉



事後学習の内容を充実していくことによって、単元全体の学習内容のより一層の定着を図り、児童の「できた」「わかった」につなげることをねらいとした。

イ 実践の方法・内容

- ・低学団・高学団2つの研究グループに分かれる。
- ・取り上げる行事単元と対象児童を決める。
- ・事後学習の内容（個人の目標、支援の手立てなど）についてグループごとに検討、児童の様子を記録。
- ・目標設定や支援の有効性をみる。

【高学団】 対象児童：4年生2名（児童C、児童D）

対象単元	事後学習内容
校外学習②（釜石方面） ・三陸鉄道乗車 ・震災学習 等	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画での振り返り ・C：日程表に写真貼り D：スタンプラリー振り返り ・三陸鉄道乗車、大船渡の津波被害について ・C：オブジェ作り D：津波、避難体験、ワークシート ・発表練習、発表
4年生宿泊学習（花巻方面） ・災害体験 ・ジャンパランド、おもちゃ美術館訪問 等	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画での振り返り ・日程表整理 ・制作、発表

対象児童2名が取り組む「校外学習②」「4年生宿泊学習」を対象単元として選択した。行事単元事後学習の各回における個人の「目標」、『「できた」「わかった」の姿（具体的な言動）』『手立て』を授業内容に合わせて検討し、事後学習計画を立てた。授業終了後「振り返り」を記入し、有効な活動や支援について振り返った。

回	授業内容	目標	できた、わかったの姿	手立て	振り返り
1	・動画や写真を見て、校外学習に行ったことを振り返る。 [7月10日(月)3・4校時]	・映像や写真を注視することができる。	・指をさす、画面に近づくなど。	・映像や写真を見ようという声かけをする。	・恋し浜駅の鐘やラグビーボールオブジェの写真が出ると、自分であることが分かり笑いながら注視していた。
2	・校外学習で行ったところを思い出して、写真を選んで行程表に貼る。 [7月10日(月)5校時]	・親住居でボールのオブジェを見たり触ったりしたことを思い出して、行程表に写真を貼ることができる。	・ボールのオブジェの写真で、うのすまい・トモスの場所に貼ることができる。	・児童が思い出しやすい写真を選んで使う。	・6枚の写真の中からラグビーボールオブジェの写真を選んで行程表のボールの写真の隣に貼ることができた。
3	・切符の買い方を思い出して券売機で切符を買い、三陸鉄道に乗る。 [7月11日(火)2・3校時]	・券売機に自分でお金を入れ、教師と一緒に切符を買うことができる。	・自分でお金を入れる。 ・こども・行き先ボタンを押す。 ・取り出し口から切符を取る。	・教師のメモを確認しながら券売機を操作できるようにする。	・自分でお金を入れ、行き先を押すときに少し迷ったが、教師の支援でボタンを押すことができ、切符を取ることができた。
4	・三陸鉄道に乗って親住居に行ったことを思い出して、三陸鉄道の線路や恋し浜駅の鐘、釜石のラグビーボールオブジェを作る。	・恋し浜駅のホームで鐘を鳴らしたことを思い出して鐘を作る。	・作った鐘を鳴らすことができる。	・鐘を鳴らしている写真を提示する。	・作業前に鐘を鳴らす写真を見せたときは笑顔が見られた。 ・恋し浜の鐘の写真の裏にボンドを塗り、段ボールに張り付けることができた。 ・鐘を覆ひもでスタンドにつける時、両手でひ

何を作っているのか理解しながら制作に取り組めた

図1 高学団事後学習計画

【低学団】 対象児童：3年生1名（児童A）、2年生1名（児童B）

対象単元	事後学習内容
3年生宿泊学習（大船渡） ・福祉の里に宿泊、YS プール利用	・写真や動画での振り返り ・壁新聞作成 ・思い出発表
低学団校外学習（陸前高田方面） ・BRT 乗車 ・まちなか広場で遊ぶ	・写真や動画での振り返り ・しおり作成（当日の写真、特に楽しかったことに花丸シール） ・楽しかったこと、がんばったこと発表
焼き芋会 ・焼き芋実食、調理	・写真や動画での振り返り ・壁面制作・調理、ゲーム作成

研究対象とした単元と児童について、「事後学習構想シート」というものを作成し、低学団の中で共有しながら研究を進めた。手順としては、最初に事後学習構想シートの「学習内容」、「目標の設定・提示の仕方」、「学習の振り返りの方法」、「支援の手立て」、「できた」「わかった」の姿の項目について作成した。事後学習を実施後に、「振り返り」の部分に対象児童の学習の様子を記入したものを再度、低学団で共有し、事後学習の有効性について検討した。

事後学習構想シート（低学団）

単元名 宿泊学習に行こう

対象児童 児童A

	事後学習①	事後学習②	事後学習③
学習内容	写真や動画をみて当日の様子を思い出す。	壁新聞を作る。	思い出を発表する。
目標の設定・提示の仕方	宿泊学習を思い出そう。 ・カレンダーを提示する。	写真を選んで壁新聞を作ろう。 ・カレンダーを提示する。 ・見本を提示する。 ・学部集会で発表することを伝える。	思い出を発表しよう。 ・壁新聞を提示し、学部集会で発表することを伝える。
学習の振り返りの方法	簡単な質問に答える。（誰と何をした、楽しかったことなど）	場所や活動ごとに写真を貼る。 ・完成したのを見る。 ・自分が貼った写真を紹介する。	思い出に残ったことについて、写真を見ながら発表する。（できれば少し具体的に発表する。） ・友達を発表を聞く。
支援の手立て	・指さし、声掛けで動画に注目を促す。 ・質問に対し悩んでいる場合は言葉で問い掛けたり、写真やしおりを一緒に見返したりする。	・どの写真を貼るか、どこに貼るか問い掛ける。	・誰と何をしたか質問する。 ・発表の手本（言葉、身振り）を示したり、一緒にやったりする。
できた・わかったの姿	・質問に答えることができる（誰ぶことができる）。	・自分で写真を選び、貼ることができる。 ・完成したのを見て、達成感を感じる。（「やったー」、笑顔など）	・教師と一緒に身振りを交えて発表することができる。 ・友達を発表に注目することができる。
振り返り	・楽しかったことを聞くとき、（動画には無いが）「お風呂」と言う。「誰と入った？」と聞く。「庭舎先生」と言っていた。	・思い出コーナーにはプールの写真を選び貼ることができた。 ・完成したのを見て、笑顔でトントントンと写真を指差していた。	・「大きいプールはどうだった？」と聞くと、「やが」「こわい」と自分で言えた。小さいプールは「できた」と言う。「楽しかった」という言葉が出なかったが、Tがジェスチャーをすると言えた。発表も大きい声で促すと大きくできた。

先生のジェスチャーや声掛けなどの支援によって思い出を発表できた。

図2 低学団事後学習構想シート

ウ 成果と課題

【全体を通しての成果】

- ・対象児童を抽出することで視点を絞って研究を進めることができた。
- ・写真・動画での振り返り活動やしおりを制作する活動は有効だった。

【全体を通しての課題】

- ・行事に応じて、発表対象を学団内や学部全体にするかなどの検討が必要になる。
- ・児童の実態に応じた発表の仕方の工夫が必要である。
→感想のみならず、事実の確認でも良さそうである。
（例）乗ったのは電車？飛行機？などの問い掛けの仕方を工夫する。

(2) 令和6年度の研究

ア 実践の方法

- ・生活単元学習のねらいについて共通理解を図る。
- ・昨年度とは異なる対象児童と単元を抽出する。

- ・事後学習構想シートを活用して、「学習内容」「個人の目標」「できた」「わかった」の姿、「支援の手立て」を検討し、児童の様子を記録する。それらを研究日で共有して、児童の「できた・わかった」につながる事後学習であったか検討する。
- ・児童の「できた」「わかった」の姿が見られた活動を事後学習における有効的な活動とする。
- ・実践を積み重ねていながら、事後学習における有効的な活動を見付ける。
- ・小学部としての行事単元の事後学習の大まかな流れを確立する。

単元名 「 宿泊学習に行こう 」

事後学習内容表

当日の活動を思い出す(想起)	活動を再現する(想起・再現)	発表・掲示など(表現)
・写真や動画を見る。 ・しおりの関連ページに写真を貼る。	・見てきたものや体験してきたものを制作する。	・掲示し、いつでも見ながら振り返りができるようにする。

事後学習計画表

回	授業内容	目標	できた・わかったの姿
1	写真や動画を見て当日を振り返る。	児童C 児童D	
2	しおりに写真を貼る。	児童C 児童D	
3	見学先について横造紙にまとめる(マップ、写真、イラスト)	児童C ・友達と協力して横造紙に写真やイラストをまとめる活動を行うことで、見学先や関連する生き物について振り返ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容が分かり、積極的にイラスト等を選んでまとめる制作に取り組む。 ・見てきた生き物について名称を話したり、自分なりに関連する話をしたりする。 ・サファリパークのまともはマップの形式にして、動物のイラストや写真を貼りながら全体の雰囲気を感じることができるようにする。 ・複数の生き物のイラストを用意し、好きなものや見てきたものを選んで色塗りができるようにする。 ・「ぞうさん」「さめ」など言いながらイラストの素材を選び、積極的に色塗りをして横造紙に貼った。 ・サファリパークのマップは写真と動物イラストの位置関係を教師と確認しながら貼り、全部が埋まると友達や教師と一緒に拍手で喜んでいた。

構想シート作成の負担を軽減するため、新しく試みる内容を中心に記載することとした。

・校外学習の事前・事後学習とおおよそ同様の流れに沿って今回の単元も構想したことで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。(キーワードにジェスチャーを付けたテーマソング、写真、動画やしおりの活用等)

・再現制作は様々な理由から横造紙に写真、イラストをまとめる形式とした。マップ(サファリパーク)はパンフレットと照らし合わせながら作成することでイメージをもち、エリアごとに動物のイラストや写真が埋まっていくのを楽しみながら制作していた児童が多かった。どの児童も決められた場所にイラストや写真を貼ることができた。事後学習後も掲示したマップを指さして見る児童が多かった。

・Cさんは事前学習からゾウを見たいとしおりのページで選択しており、事後学習でもゾウのイラストを選んで色塗りをしていた。好きなものや目的の一貫性が感じられた。

・児童の興味、関心に合った見学先や内容を検討することで事前、事後学習の理解もより深まると感じた。Dさんは写真や動画で振り返っても、今年度の校外での学習において、一番関心をもち、取り組むことができていた。

単元全体の成果や授業以外で見られた児童の「できた」「わかった」の姿を記録した。

図3 事後学習構想シート

イ 「できた」「わかった」の姿について

R5年度の研究を通して、小学部では以下のような児童の様子を「できた」「わかった」の姿と捉えた。

注目する、指差す、注目する物に近づく、作った物で遊ぶ、作品を作って「やったあ」と言う等して達成感を感じる、プリントで写真や絵を適切な場所に貼る、発問に自分なりの表現で答える、「お金を払う」「切符を買う」等自分で考えて動く、感想を自分なりの表現で発表する、感想を教師と一緒に考えながら文章に書く等

R6年度の研究では、生活単元学習という実際の生活に直接結びついた学習であるという点から、この児童の様子に加えて事後学習の時間の姿のみならず、授業以外の場面(他教科の授業、休み時間)で見られた姿や発言、家庭での行動や発言も「できた」「わかった」の姿と捉えたとした。

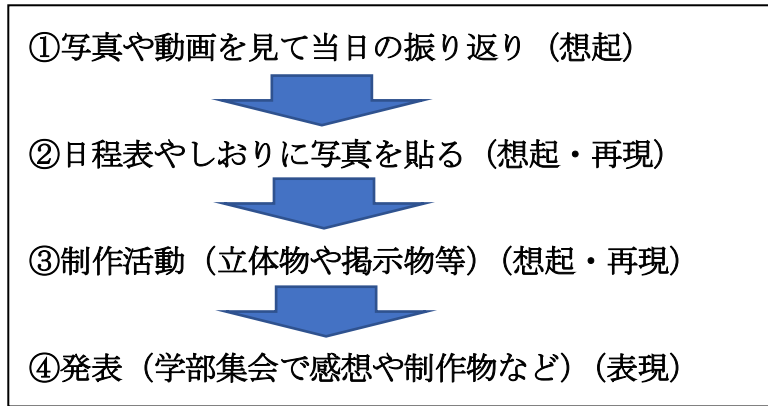
ウ 実践の内容

- ・低学団校外学習(別紙1)
- ・4年生校外学習(別紙2)
- ・5・6年宿泊学習(別紙3)

エ 成果と課題

【全体を通しての成果】

これまでも行ってきた以下①～④の事後学習の流れは、繰り返し取り組んできたことから児童が安心して授業に参加したり、主体的に活動したりできるものであった。そのため、それぞれの活動のねらいを整理した上で継続したところ、この流れが適切であることを再確認できた。事前・事後学習をいつも同様の流れで行うことで、その中の活動に変化をつけても児童が取り組みやすいことが分かった。



・事後学習において以下の活動が有効だった。

当日の活動を思い出す （想起）	活動を再現する （想起・再現）	発表・掲示など （表現）
<ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画を見る ・しおりに写真を貼る ・壁新聞を作る（写真を貼る、質問で聞いたことを書く等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学したものや体験したものを制作する ・学んだことを再現・動作化する ・見学先を模造紙にまとめる（マップ、写真、イラスト） ・借りてきた本の読み聞かせを聞く ・アルバムを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作物を掲示する ・学部、学団で発表する（楽しかったこと、質問して聞いたこと、学んだことの再現・動作化） ・体験したことの事実を確認する ・手紙（お礼状）を作る ・好きな本を紹介する

- ・授業時数を多くすると児童の関心や集中を持続させることが難しい、しおりを精選した内容でパターン化すると学習内容への理解が深まるなどの意見があった。そのため、事後学習の内容を充実させるためには、どんどんと授業の活動を難しくしてだけでなく、実態に応じた適切な時数と内容があることが分かった。
- ・事後学習の中に児童のこれまでの経験や他の教科等で扱った内容を取り入れたり、行事単位に関連する内容を教科学習に取り入れたり、相互に関連させて指導を行ったことで、より児童の深い学びにつながった。
- ・授業以外においても『つなみ』と言う「掲示したマップを指差して見る」等、様々な場面における児童の様子を共有し、児童の理解が深まっていることを感じた。
- ・事後学習構想シートは様式を見直しながら活用し、事後学習の指導の充実を図ることができた。

【全体を通しての課題】

- ・児童の「できた」「わかった」の姿が授業後にもどんどんと見えてくる部分もあるため、学習したことを活かす日々の児童の姿にも注目し、記録したものを学部で共有しながら、次の行事単元の指導に活かしていくようにする。
- ・授業のねらいや児童の実態に応じて、学習集団やグループ編成の仕方を検討していく必要がある。
- ・ICTを活用するなど、それぞれの児童の実態に合わせた発表方法や、学部内にとどまらず、保護者や他学部を発表対象とするなど、発表の場を検討していく必要がある。
- ・行事単元の事後学習で有効だった活動を活かし、学級生単の振り返りも充実させていきたい。

(3) まとめ

生活単元学習の行事単元の事後学習について、児童の「できた」「わかった」の姿を学部全体で共有し、変容を見ながら、有効的な活動について検討を進めた。その中で、事後学習をいつも同様の流れで行うことによって、児童が安心して授業に参加したり、主体的に活動したりできるということを再認識した。また、教科等の横断的な視点を意識して、他の教科等で扱った内容や児童のこれまでの経験を相互に関連させて指導することが、児童の深い学びにつながることも学部全体で共有することができた。

また、児童の学びは事後学習の時間のみで完結するのではなく、その後の学校や家庭の様々な場面で児童の「できた」「わかった」の姿をしっかりと見取り、記録したものを学部で共有しながら、次の事後学習につなげていくことの必要性を認識した。

今回の研究を通して、確立した事後学習の流れを今後活かしていきながら、児童の「できた」「わかった」の姿がより多く見られるよう、授業改善に努めていきたい。

単元名 低学団 「 校外学習に行こう 」

事後学習内容表

当日の活動を思い出す（想起）	活動を再現する（想起・再現）	発表・掲示など（表現）
<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画を見る。 しおりに当日の写真を貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> 借りてきた本の読み聞かせを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> アルバムづくり。 手紙（お礼状）づくり。 好きな本の紹介。

事後学習計画表

回	授業内容	目標	できた・わかったの姿	手立て	振り返り
1	<ul style="list-style-type: none"> 写真、映像を見て活動を振り返る。 借りてきた本の読み聞かせ 	児童A <ul style="list-style-type: none"> 写真や映像に注目することができる。 絵本のイラストに注目し、静かに読み聞かせを聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真を写す画面に顔を向ける。 画面を見つめる。 絵本を見たり、ページをめくったりする。 最後まで落ち着いて聞く。 笑顔を見せたり、柔らかい表情をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> テレビの前に椅子を置き、そこに座ってみようとする。 指をさして注目するよう促す。 教師が後ろから手を添えて一緒にページをめくりながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画をテレビに写すと、最後まで落ち着いて写真を見たり、画面に注目したりすることができた。 借りた本の中から、「へんしん」を読み聞かせた。教師の促しに応じ、ページをめくったりしながら、最後まで自分の席に座って落ち着いて聞くことができた。
2	<ul style="list-style-type: none"> クローバーへの手紙（お礼状）作り 借りてきた本の読み聞かせ 	児童A <ul style="list-style-type: none"> 自分が食べたものを思い出しながら、教師と一緒に手紙を作ることができる。 絵本のイラストに注目し、静かに読み聞かせを聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が食べたものの写真を指さすなどして選ぶ。 絵本を見たり、ページをめくったりする。 最後まで落ち着いて聞く。 笑顔を見せたり、柔らかい表情をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に食べたものや食べている様子の写真を用意する。 教師が後ろから手を添えて一緒にページをめくりながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> クローバーでお昼を食べ、オムライスを選んだことを、写真を見せながら声掛けした。写真に注目していた。オムライスと冷麺の写真を提示し、「どっち食べたかな？」と聞くと「オムライス」を選ぶことができた。 読み聞かせは、手紙作りに時間がかかったため実施できなかった。

3	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバム作り ・借りてきた本の読み聞かせ 	<p>児童A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真に注目しながら、時間いっぱい落ち着いてアルバムを作ることができる。 ・絵本のイラストに注目し、静かに読み聞かせを聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真に注目する。 ・最後まで落ち着いて取り組む。 ・写真の向きを正しくして貼る。 ・絵本を見たり、ページをめくったりする。 ・最後まで落ち着いて聞く。 ・笑顔を見せたり、柔らかい表情をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてるよう、始めに貼る写真をすべて見せる。 ・教師が後ろから手を添えて一緒にページをめくりながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真に注目しながら、落ち着いてアルバムを作ることができた。毎月行っているため、見通しがもてたようで、てきぱき取り組むことができた。 ・時間の関係で読み聞かせは実施できなかった。
4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館への手紙（お礼状作り） ・借りてきた本の読み聞かせ ・好きな本の紹介 	<p>児童A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が借りた本を思い出しながら、教師と一緒に手紙を作ることができる。 ・絵本のイラストに注目し、静かに読み聞かせを聞くことができる。 ・借りてきた本の中から、特に好きな本を自分で選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が食べたものの写真を指さすなどして選ぶ。 ・絵本を見たり、ページをめくったりする。 ・最後まで落ち着いて聞く。 ・笑顔を見せたり、柔らかい表情をしたりする。 ・教師の声掛けを受けて、指をさしたりして好きな本を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に借りた本や、図書館で過ごしている写真を用意する。 ・教師が後ろから手を添えて一緒にページをめくりながら読む。 ・本の絵や内容に慣れるよう、繰り返し読み聞かせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせは、始めは少し気持ちが乗らない様子だったため、教師の膝の上に座ると、最後まで落ち着いて聞くことができた。教師と一緒に優しくページをめくることができた。 ・手紙づくりは、後半は泣いてしまったが、前半は指定した場所に写真を貼ることができた。 ・借りてきた本の中から最も手に取って読んでいた「へんしん」を教師と一緒に選ぶことができた。

単元全体の成果

- ・事前、事後学習全体を通して、同じ活動を繰り返し行い、学習を積み重ねていくことは、児童の学びを深めることにつながった。
- ・授業者が事前、事後学習の中で、意識的に児童が選択する機会を多く設定したことで、児童が苦手としていた選択という行動ができるようになってきた。
- ・BRTの切符購入や、レストランなどでお金を払う活動を毎年積み重ねていったことで、学習の成果を着実に児童から見取ることができた。

単元名 4年生「校外学習に行こう」

事後学習内容表

当日の活動を思い出す（想起）	活動を再現する（想起・再現）	発表・掲示など（表現）
<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画を見る しおりに写真を貼る 壁新聞を作る（写真を貼る、質問で聞いたことを書く） 	<ul style="list-style-type: none"> 「波」を制作する 学んだこと（津波から逃げることを）を寸劇で再現する 	<ul style="list-style-type: none"> 寸劇を学部で発表する 壁新聞を掲示する 質問で聞いたことを伝える

事後学習計画表

回	授業内容	目標	できた・わかったの姿	手立て	振り返り
1	・動画を見る	児童B			
2	・しおりに写真を貼る	児童B			
3	・壁新聞に写真を貼る、聞いたことを書く	児童B ・見たもの、したこと、聞いたことを教師と振り返り、言葉やジェスチャーで表すことができる。	・聞いたことを教師と一緒に思い出し、話したり、壁新聞に書いたりすることができる。	・写真を一緒に確認して質問する。 ・分からなかった内容については、本人が質問した動画で振り返ったり、二択で聞いたりする。	・展示された携帯について誰の携帯か聞くと「パパ」と言う。※以後も何回か聞くが「パパ」と言う。本当は分かっているそう…
4	・津波の写真、紙芝居を見る ・スズランテープで波を作る	児童B ・津波についての写真や紙芝居に注目することができる。 ・手本を見て制作に取り組むことができる。	・写っているものや知っていることを言葉やジェスチャーで表す。「つなみ」「にげる」「やま」等 ・何を作るか分かる。「なみ」「つなみ」と言う。模倣して作る。	・特に覚えてほしい言葉をしぼり、繰り返し言ったり、分かりやすいジェスチャーをつけたりする。 ・波のイラストや写真、完成の見本を提示する。 ・教師の手本や友達の活動の様子に注目を促す。	・津波が来たらどこに逃げる？と聞くと「やま」と答えた。 ・スズランテープを割いたり、イラストを貼ったりすることができた。

5	<ul style="list-style-type: none"> 小中ホールで寸劇の練習をする 	児童B <ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に発表の練習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動きを模倣したり、声を出したりすることができる。(言えたら「つなみ」「にげて」) 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が手本を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 地震がきたら頭を守る(ダンゴムシのポーズ)、津波がきたら走って逃げる動きができた。
6	<ul style="list-style-type: none"> 壁新聞を掲示する。 寸劇を発表する 	児童B <ul style="list-style-type: none"> 校外学習で学んだことを発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動きを模倣したり、声を出したりすることができる。(言えたら「つなみ」「にげて」) 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が手本を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「キャー」と声を出して逃げた。

単元全体の成果

- 授業時間以外で津波のジェスチャー、「つなみ」と言う姿が見られた。
 - 事前・事後で津波のアニメ(未来館で放映している)や本、紙芝居を繰り返し見たので、津波について知ることができた。
 - お芝居で発表することによって「地震→津波→高いところに逃げる」と覚えられた。→再現・動作化
- 4年生の児童は自分ごととして捉え、学びを深めることができた。発表を見た児童の中には寸劇に参加する児童もおり、学び合いができた。
- 質問の内容は児童にとって少し難しかったようだ。「質問した」という行動自体は自信をもてたようだった。

単元名 5年生「 宿泊学習に行こう 」

事後学習内容表

当日の活動を思い出す（想起）	活動を再現する（想起・再現）	発表・掲示など（表現）
<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画を見る しおりの関連ページに写真を貼る 	<ul style="list-style-type: none"> 見てきたものや体験してきたものを制作する 	<ul style="list-style-type: none"> 掲示し、いつでも見ながら振り返りができるようにする

事後学習計画表

回	授業内容	目標	できた・わかったの姿	手立て	振り返り
1	写真や動画を見て当日を振り返る	児童C			
		児童D			
2	しおりに写真を貼る	児童C			
		児童D			
3	見学先について模造紙にまとめる(マップ、写真、イラスト)	児童C ・友達と協力して模造紙に写真やイラストをまとめる活動を行うことで、見学先や関連する生き物について振り返ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容が分かり、積極的にイラスト等を選んでまとめの制作に取り組む。 見てきた生き物について名称を話したり、自分なりに関連する話をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> サファリパークのまとめはマップの形式にして、動物のイラストや写真を貼りながら全体の雰囲気を想起できるようにする。 複数の生き物のイラストを用意し、好きなものや見てきたものを選んで色塗りができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ぞうさん」「さめ」など言いながらイラストの素材を選び、積極的に色塗りをした模造紙に貼った。 サファリパークのマップは写真と動物イラストの位置関係を教師と確認しながら貼り、全部が埋まると友達や教師と一緒に拍手で喜んでいった。
		児童D ・写真にテープを貼る作業、写真を教師と一緒に模造紙に貼ることで、見てきた動物や見学先の生き物について振り返ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 教師の声掛けに、写真を見つめる、触る、声を出すなど、自分なりの表現で応えながら取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真を見ながら、何の動物か、生き物かなのかを教師が伝えながら作業に取り組むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が見てきた動物や生き物について伝えながら、写真を一緒に貼ると、写真触ったり、見つめたりして応えていた。

単元全体の成果

- ・校外学習の事前・事後学習とおおよそ同様の流れに沿って今回の単元も構想したことで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。(キーワードにジェスチャーを付けたテーマソング、写真、動画やしおりの活用等)
- ・再現制作は様々な理由から模造紙に写真、イラストをまとめる形式とした。マップ(サファリパーク)はパンフレットと照らし合わせながら作成することでイメージをもち、エリアごとに動物のイラストや写真が埋まっていくのを楽しみながら制作していた児童が多かった。どの児童も決められた場所にイラストや写真を貼ることができた。事後学習後も掲示したマップを指さして見る児童が多くいた。
- ・Cさんは事前学習からゾウを見たいとしおりのページで選択しており、事後学習でもゾウのイラストを選んで色塗りをしていた。好きなものや目的の一貫性が感じられた。
- ・児童の興味、関心に合った見学先や内容を検討することで事前、事後学習の理解もより深まると感じた。Dさんは写真や動画で振り返っても、今年度の校外での学習において、一番関心をもって見学ができていた。

2 中学部

(1) 令和5年度の研究

ア 実践の方法・内容

全体研究主題『児童生徒が「できた」「わかった」と感じられる授業づくり ～学習の振り返りの充実～』を受けて中学部では、作業学習を対象として研究を進めた。生徒がその日の目標を理解して作業に臨み、目標を達成できたと感じられるような授業づくりを目指すことをねらいとした。

初めに、作業班ごとに現状の授業の課題点、問題点を話し合った。特に授業の中の目標の確認や振り返りの部分に重点を置き、「日誌について」「始めの会・目標の提示について」「反省会・振り返りについて」「授業の流れ・活動について」の項目で話し合いを行った。次に、改善案を検討し、改善した内容での授業実践を行った(図1)。授業実践後は生徒の変容を記録し、学部内で共有した(図2)。

開かれた授業研究会では、木工班の作業学習(単元名「販売会に向けて製品を作ろう」)の研究授業及び授業研究会を行った。研究に関わって改善した内容を授業に盛り込んだ。授業研究会では、『生徒が「できた」「わかった」と思える振り返りになっていたか』、『自分の役割の中で、生徒が主体的に行動するための手立て、支援』の2つの協議の柱について、グループ協議を行った。作業途中での評価も大切であり、作業途中での評価が、最後に生徒が振り返る際の手本にもなる、という助言をいただいた。

<ul style="list-style-type: none">・始めの会と反省会の進め方を検討し、項目を変更した。・ノルマの数の提示、目標や反省を個々に発表するなどの変更を行った。・日誌の様式を変更した。反省を書く欄を「できたこと」、「難しかったこと」に分けた。また、自分で評価して○や△を付けていた部分を教師と一緒に振り返り、記入するようにした。・日誌の内容を黒板に記入することで、日誌の内容を全員で共有し、自分自身も意識しながら作業に取り組めるようにした。・作業内容を可能な限り固定し、一つの作業工程の深まりを図った。・作業がスムーズに進むための動線の工夫や、安全に集中して作業できる場の設定、教師の入り方などを検討し、改善をした。・作業の中で、目標を意識できるような声掛けを行った。

図1 (木工班 授業改善点)

授業改善前	授業改善後
<ul style="list-style-type: none">・反省で「難しかったこと」について自分から挙げるができなかった。・目標を考える際、「丁寧に塗る」や「安全に作業する」などの大まかな目標が多かった。・作業スピードを意識せず、自分のペースで作業を進めていた。・次の作業に移る際に、分かっているが教師に「次は○○でいいですか」と確認をしていた。	<ul style="list-style-type: none">・教師に指摘されたことや達成できなかったことを振り返り「難しかったこと」を考えることができるようになった。・これまでの反省での難しかったことを振り返りながら「ニスをムラなく塗る」「自分で確認しながら早く作業する」など、より具体的な目標設定ができるようになった。・ノルマの数を意識し、スピードも意識しながら作業を進められるようになった。・自分で黒板を確認して次の作業にスムーズに移ることができるようになった。

図2 (木工班 生徒の様子)

イ 成果と課題

【生徒にとっての成果と課題】

・授業改善後の生徒の様子から、自分の作業内容や目標を理解して取り組むことができているようにみえた。

【職員にとっての成果と課題】

- ・生徒の様子から、『生徒が「できた」「わかった」と感じられる授業』に近付けることができたと考えられる。
- ・各作業班で話し合いの時間を設定したことによって、授業の進め方や生徒の様子について共通理解を図り、指導の統一性をとることができた。
- ・研究を通して、目標を的確に設定することや、しっかり振り返りをするために目を向けて授業づくりをすることができた。
- ・生徒の達成具合や取り組み状況を見取り、一人一人に向き合いながら授業づくりをすることができた。
- ・目標を、数量から製品の質の向上に変えていく必要がある。
- ・生徒の姿から成長を読み取れるように、評価の規準を明確にしていく必要がある。
- ・タブレットを使用する等、生徒にとって有効な振り返りの方法についてさらに検討していく必要がある。

(2) 令和6年度の研究

ア 実践の方法・内容

昨年度に引き続き作業学習を対象とし、昨年度の課題点の改善を目指して研究を進めた。まず始めに、作業学習とは何かという基本的な部分について、学部内で共通理解を図った。作業学習の意義やねらいについて理解することを通して、より良い授業改善に繋がると考えたからである。

昨年度はそれぞれの作業班の生徒全員を対象に授業改善を行ったが、今年度はより個人に焦点を当てて振り返りの充実を図ることとした。そのため、生徒一人につき一枚、記録シートを作成した。記録

シートには、反省会における「できた」「わかった」の姿を記入し、職員で共通理解した。反省会での「できた」「わかった」の姿を設定することにより、より充実した授業になると考えた。その姿に近付けるよう手立てや支援を考え、6月～11月の期間、生徒の様子を記録した（別紙1、2）。

開かれた授業研究会は、工芸班の作業学習（単元名「校外製品販売会で販売をしよう」）で行った。学習指導案には作業場面と反省会場面におけるそれぞれの生徒の目標を記載した。授業で見られていた生徒の「できた」「わかった」の姿や「できた」「わかった」と感じられるための有効な手立て・支援について協議し、いただいた意見をもとに、授業改善を行った。

イ 成果と課題

【記録シートからみられる生徒にとっての成果】

- ・反省会でその日の自分の作業内容が分かることや、作業の出来栄えが分かること、目標数が達成できたかどうか分かることなど、それぞれの目指す姿に近づくことができた。
- ・自分で作業の出来栄えを判断したり、できたこと、できなかったことを振り返ったりすることができる生徒が増えた。
- ・振り返りを次の目標や作業に生かしたり、自分から準備や作業に取り組んだりすることができる生徒が増えた。

【令和5年度の課題に対する成果及び今年度の成果】

- ・生徒に合わせてより具体的な目標を決め、実態によって質の向上を目標とすることができた。
- ・始めに生徒一人一人の「できた」「わかった」の姿を共通理解したことによって、作業班の職員全員がそれぞれの生徒の目指す姿が分かり、授業内でその姿を意識しながら支援することができた。
- ・タブレットで作業中の様子を撮影して反省会で見たり、作業中に付箋に評価を書き、日誌記入の際に活用したりするなど、新たな振り返りの方法を実践することができた。
- ・生徒の様子を記録したことにより、反省会や作業場面での生徒の変容を見取ることができた。
- ・「できた」「わかった」の姿を意識することが、支援が適切かどうかを考えるきっかけとなり、授業改善につながった。

【課題】

- ・振り返りの充実を図るため、記録シートに記入する生徒の目指す姿を、反省会での「できた」「わかった」の姿としたが、生徒の実態によっては反省会での姿だけでは判断できなかった。自分から準備を始めたり、作業方法を工夫したりするなど、作業場面で見取ることができる「できた」「わかった」の姿が多くあった。
- ・今回の研究では、作業学習を対象としたが、他の教科においても、有効な振り返りの方法を検討し、生徒が「できた」「わかった」と感じられる授業づくりをしていく必要がある。

(3) まとめ

中学部では、作業学習において、生徒が「できた」「わかった」と感じられる授業を目指して授業づくりに取り組んだ。学習の振り返りの充実という視点で授業を捉えることにより、反省会の在り方のみならず、適切な目標設定や授業改善にもつなげることができた。生徒は、「できた」「わかった」と感じられたことから自信をもち、次の学習の目標に意識を向けることができた。また、今の自分の現状を知るきっかけとなり、目指すべき自分の目標を決めていくことにつながると思われる。今後は、2年間の研究を通して得た成果と課題を様々な教科・領域で生かしていきたい。

別紙 1

【記録シート】

工芸班 生徒E

反省会における「できた」「わかった」の姿

- (1) 「できたこと、わかったこと」、「できなかったこと、難しかったこと」を具体的に日誌に書き、反省会で発表することができる。
- (2) 「できなかったこと」の改善点を自分で考えて日誌に書き、反省会で発表することができる。

手立て・支援等	生徒の様子（記入日）
<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日誌の様式を変更し、「できたこと、わかったこと」「できなかったこと、難しかったこと」を記述できる欄を作る。 ・始めの会の前に、目標を具体的に考える。必要に応じて教師がアドバイスをする。 <p>・日誌を書く際に、作業中に先生から言われたことを思い出すように声掛けをする。</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できなかったことがあった場合、作業中に、生徒と原因や改善点についてやり取りする。 ・日誌の記入欄を変更する。「できなかったこと」の欄に「どうすればできるようになるか」の文言を追加する。 ・改善点を最初に自分の言葉で話すように促し、適切な言葉や文章の順番をアドバイスする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日誌を書く際にできなかったことを考えるようになった。(6月) ・目標を「形がきれいな紙を作る」とし、「紙の形をきれいにするためには、枠をゆっくり開ければいいことがわかりました。」と反省会で発表することができた。(6月) ・前時の日誌を見て、前時できなかったことを目標にすることができた。(9月) ・「缶をしっかりきれいにつぶす」という、作業中に注意されたことを「できなかったこと」の欄に書くことができた。(9月) ・日誌を書く際に「今日言われたことは…」と話し、「タオル」「紙の厚さ」など短い言葉ではあるが、思い出して自分から書くようになった。(11月) ・失敗した時に報告し、自分から原因を考えて話すことができるようになってきた。(6月) ・「できなかったこと」の改善点を自分で考えて書こうとするが、文章で書くことが難しい。(9月) ・自分の言葉で教師に説明し、教師のアドバイスを受けて日誌に文章で書くことができた。(11月)

別紙 2

【記録シート】

木工班 生徒 F

反省会における「できた」「わかった」の姿

- (1) 目標をもとに自分で反省（できたこと・難しかったこと）を考え、日誌に記入することができる。
- (2) できてうれしかったことや、次回がんばりたいことなど、作業の感想を話すことができる。

手立て・支援等	生徒の様子（記入日）
<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日誌に反省を記入する前に目標を再度確認する。 ・作業中に良かったことや注意する点について、教師がその場で付箋に書き、机に貼っておく。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動中に良い作業や態度について取り上げ、適宜声掛けを行う。(即時評価) ・作業が終わった際に、その日の完成した数などを教師と確認する。 ・日誌記入の際に予め感想を話し合い、必要に応じて言葉を補足しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れてくると自分から目標に対して自分ができていたかどうかを考える様子が見られた。(6月) ・日誌に記入する「難しかったこと」について、作業中に注意を受けた付箋を見て、それを参考に日誌に記入することができていた。(6月) ・日誌に記入する前に、できたことや難しかったことを自分で考えて教師に伝えることができるようになってきた。(11月) ・「〇個できてうれしかった」などの具体的な感想を話す姿が見られた。(6月) ・事前に感想を話し合ったことによって、反省会の中でもできたことだけでなく難しかったことも感想の中で話す様子が見られた。(9月下旬) ・次回気を付けることを感想の中で話すことができるようになってきた。(11月)

3 高等部

(1) 令和5年度の研究

ア 実践の方法・内容

全体研究の主題を受け、一人の生徒を対象とした事例や高等部特設教科「産業社会と人間」、「生活単元学習」の授業実践の事例を各学年から1例ずつ取り上げ、生徒が「できた」「わかった」と感じることができる指導内容、目標設定、教材教具の工夫、支援のあり方、学習の振り返りのあり方について学部全体で検討し、実践事例をまとめた。

1年生の事例は、自分の興味・関心があることについての知識はあり質問に答えたりできるが、日常生活や学校生活の中で経験したことを思い出し言葉で表現することが苦手な生徒の指導事例を取り上げた。校内実習の日記の記入や学習の振り返りでは、写真やイラストを手掛かりする、選択肢の中から答えを選ぶようにする支援が、「できた」「わかった」につながる有効な手立てであることが分かった。

2年の事例は、対人関係に不安がある生徒の指導事例を取り上げた。修学旅行の事前学習で調べ学習の発表をオンラインにしたことで、ICT機器を活用することで不安を軽減でき活動できた指導事例を取り上げた。

3年生の事例は、「自己分析シート」を活用した現場実習の事前・事後学習の授業実践を取り上げた。自己分析シートを活用し教師と対話することによって、事前学習で自分課題が分かり目標を設定し、事後学習では実習で経験したことをしっかりと振り返り自己理解を深めることができた。実習の事前・事後指導で「自己分析シート」を活用することが有効な手立てであり、自分の課題を振り返るツールになることを学部で確認した。

開かれた授業研究会では、高等部1学年の生活単元学習「宿泊学習に行こう」の研究授業、授業研究会を行い、「授業の振り返りについて」「生徒一人ひとりの指導目標と支援について」を協議の柱として授業研究会で協議をした。見通しをもって取り組める学習活動、生徒同士の学びあいが「できた」「わかった」につながることを確認された。

イ 成果と課題

【成果】

1年生の実習日記の様式と支援を工夫・改善したことにより、主体的に振り返りができるようになった事例、2年生のICT機器を使うことにより苦手とする授業に参加できるようになった事例、3年生の実態に合わせた自己分析シートや支援を工夫改善したことにより自己分析し現場実習に臨み反省することができた事例があげられた。「生徒が主体的に活動できたか」、「一人一人の目標は適切であったか」、「支援の手立ては適切であったか」の観点から授業を振り返り、PDCAサイクルによる授業改善を行った。目標を見直し手立てや支援を工夫することの積み重ねや、見通しをもって活動できる学習内容、生徒同士の学びあいも「できた」、「わかった」の達成感や学習意欲につながることを事例研、授業研究会をとおして確認できた。

【課題】

「できた」「わかった」をどのようにとらえるのか、研究のテーマについて課題が挙げられていたが、深めることができなかった。

(2) 令和6年度の研究

ア 実践の方法と内容

昨年度は「生活単元学習」高等部特設教科「産業社会と人間」の指導事例をとおし、生徒が「できた」「わかった」につながる手立てや教材について研究をすすめた。今年度は作業学習を研究対象とし、「できた」「わかった」につながる学習の振り返りに焦点をあてた授業実践に取り組んだ。

(ア) 作業日記の改善

作業日記は、目標設定、目標確認、作業の振り返りを行う際のツールとなっている。改善前は、どの作業班も同じ様式を使用していたが、生徒が自分で考え振り返りができる作業日記の様式について作業班毎に検討を行った。

〈農耕環境班〉

反省項目の「失敗したこと、できなかったこと、注意されたこと」の内容では、マイナスのとらえ方になり書けないのではないかと考え、肯定的に捉えられるように「アドバイスをうけたこと、教えてもらったこと」の表現に変更した。グループでの振り返りの観点である「うまくできたこと」「アドバイスされたこと」「課題」の3点と日誌の振り返りの項目が一致するように改善した。グループでの振り返り、教師から提示された付箋を見て、具体的に振り返ることができた。

〈手芸班〉

朝礼や終礼で目標や振り返りを具体的にしたことにより、「しるしをよくみる」「糸をピーンとはる」「刺し子を3本縫う」など作業技術や作業量が目標としてあげられるようになった。目標を「時間をまもる」「あいさつ、返事をする」「報告をする」などの項目を選択して記入する作業日誌の様式を見直した。目標の記入を文章で表すように変更し、選択目標にあった項目は、作業終了後に振り返るように変更した。作業技術や作業量を目標とし文章で表すことにより自分の目標が明確になり、◎、○、△、×で振り返ることができた。

〈陶芸班〉 (別紙1：改善前と後)

自分で考えて書くこと、文字を書くことが難しかったことから、本人が記入する箇所は日付と反省の○△のみとし、目標や作業内容は選択式のものに変更した。本人の実態にあった様式にしたことで、自分から記入することが増えた。

(イ) 学習の振り返り

〈農耕環境班〉

○終礼等での振り返り

作業中に教師が気付いた「うまくできたこと」や「うまくできるための方法」など生徒にその都度、即時に褒めたり伝えたりするほかに「うまくできたこと」(赤い付箋)、「アドバイスしたこと」(黄色の付箋)、「課題となること」(青い付箋)の3観点について教師が付箋に記入しメモを残すようにした。

終礼前にグループで付箋を見て確認しながら「うまくできたこと」、「アドバイスをうけたこと」、「次ががんばりたいこと」について、一人ひとり教師と話し合う時間を設けた。その中で、どんな点が良かったのか、どんなアドバイスを受けたのか、課題となったことはどうすればよかったのかを対話することで振り返りをし、グループでの話し合いや付箋を見ながら日誌に記入するようにした。終礼では反省や自己採点の点数と理由を発表することで振り返りをし、日誌記入後に教師から質問やアドバイスを受けたり、終礼後に日誌を担当教師に提出し書いてもらったコメントを読んだりすることで、さらに振り返りを深めることができるようにした。

教師や生徒同士での振り返りと日誌記入や発表での振り返りを交互に繰り返し行うことを通して具体的に反省ができ、次は何を目標にして取り組めばよいか考えることができた。また、生徒同士でよかった点や改善点をお互いに話すことも学び合う場となった。

○販売活動の振り返りなど

販売活動を行った日は、「販売活動振り返り」シート(別紙2)を使っての振り返りを行い、次の販売活動につなげた。

〈手芸班〉

今年度から、目標と反省が分かるように、黒板に目標、振り返り、評価の表を作成し、朝礼時と終礼時に書き込むようにした(図1)。終礼時に記入した内容は、消さずに残しておき、生徒が日誌に目標を記入する際、前時の振り返りから目標を考えるように促した。また、振り返り時に、目標に対して◎、○、△、×で自己評価することも今年度から取り組んだ。

終礼の前に日誌を書き、「よかったところ」「失敗したこと」などを教師と対話をしながら振り返るようにした。終礼時の振り返りは、目標の振り返りの発表の後に、失敗したことや難しかったことは、どんなことに気を付ければ良かったのかを自己評価で○、△、×になったとき、どんなことを頑張れば◎、○になるか生徒が考えたり、教師からアドバイスをしたりするなど、対話的に振り返るようにした。「どうすればよかったか」を振り返ることで、「糸をピーンとはる」、「姿勢に気をつける」、「糸こきしつかり」「印をよく見る」、「(布地の)後ろも確認」など、次に向けた目標が具体的になった。

同じ作業を繰り返して取り組む中で、生徒一人ひとりの技術も向上してきている。どうすればよ

かったかを振り返り次の目標にして取り組んできたことの積み重ね、自己評価で◎を目指そうするモチベーション、生徒一人ひとりへの支援が技術の向上につながっていると考える。

また、朝礼時には前時の反省を振り返るようにし、報告するなど態度面の反省に対しどうすればよいのか伝えるようにした。「自分が報告や確認をしたいとき、先生が誰かに教えていたら、待つようにしましょう。他の先生に報告するようにしよう」など、前時に反省したことを振り返り伝えることによって、課題となったことに気を付けて取り組む姿もみられた。

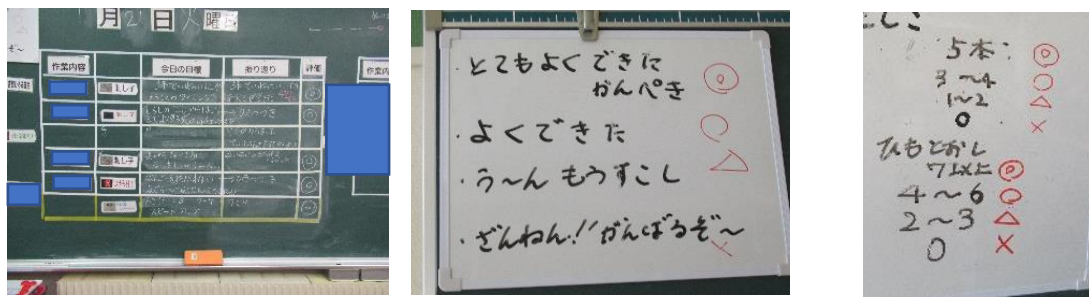


図 1

〈陶芸班〉

陶芸班では、窯出しされた製品を見比べ振り返りを行った。窯出しされた製品を成形や撥水剤の塗り方、釉薬のかけ方などについて現物を提示しながら、作業の結果を確認した。不出来な製品と窯出しされた製品と見比べ「販売会に出せるか、出せないか」を生徒が品評し、「出せない」と評価された製品について「どこが悪いのか」「どうすればよかったのか」を振り返るようにした。振り返った点について、次の製品づくりに生かすようにした。

また、光陵祭前に出品する製品について品評会をおこなった。販売する製品全種類の形や色の評価、良い点、改善点全員が記入した品評会プリントを基に、感想や意見を話し合った。自分たちが考えた売れ筋、光陵祭での製品の売れ筋を比較し、どんな製品が売れるかを振り返り作業製品づくりに生かした。

イ 成果と課題

【成果】

- ・朝礼や終礼の内容、振り返りのあり方について作業班毎に検討した。生徒一人ひとりに対し振り返りを丁寧に行うことが自分で目標を考え取り組む姿がみられ、「できた」「わかった」につながるようになった。
- ・作業日誌の様式を見直し、各作業班で生徒が主体的に書くことができるような様式に改善することができた。
- ・朝礼や終礼での目標や反省を全体場で発表すること、教師からのアドバイスを聞くことが生徒同士の学びあいの場、できたことを称賛しあうことが生徒のモチベーションの場となっている。目標や反省を共有することで、生徒同士で励ましあったり、アドバイスをしたりする場面もみられた。

【課題】

- ・各班の改善された様式のすり合わせをし、班の実態に合せながら基本的な項目を統一する。
- ・生徒の変容を記録する様式を統一、残すようにすればよかった。

(3) まとめ

生徒の実態に合った課題、作業内容、見直しをもって取りくめるような支援、生徒同士の学び合いが「できた」「わかった」の基本となる。

令和5年度の「自己分析シート」の実践例、令和6年度の作業の実践から、生徒達は、教師との対話による振り返りを行うことで、自分自身の良さや課題を知り自分で次の目標を考え、取り組むことができることが確認できた。課題ができたときの達成感が「できた」「わかった」であり、その積み重ねが生きる力になると考える。今後も対話的な学習の振り返りを深めるようにしていきたい。

〈変更前〉

がつ 月 日 ようび 曜日

目標	ほうこく		
仕事内容	はんぱいじゆんび		
はんせい(できたら○をする)			
じかん まも 時間を守る	<input checked="" type="checkbox"/>	ほうこく 報告をする	<input type="checkbox"/>
あいさつ、へんじをする	<input type="checkbox"/>	わす もの 忘れ物は なかったか	<input type="checkbox"/>
み 身だしなみをととのえる	<input type="checkbox"/>		
さいごまで 仕事を	<input type="checkbox"/>		
○うまくできたこと	しゅうちゅう		
△つぎにきをつけること	ほうこく		
担当者から	サイン		
しゅうちゅう できていました。			○
そうじも ばっちり でした。			



〈変更後〉

月 日 ようび 曜日

◆ 作業前までに きにゆうしておく

今日の目標に ○をする	○をする (担当者)	今日の目標	できたら○ (担当者)
			時間をまもる。
		あいさつ、返事をする。	
		みだしなみをととのえる。	
		最後まで仕事を	
	<input checked="" type="checkbox"/>	報告をする。	<input checked="" type="checkbox"/>
		忘れものをしない。	

◆ 作業後にきにゆうする。

今日の仕事内容	しごとりよう (担当者)
ねんどきり・せいらい(どんぶり)・かまだし・やすりがけ	<input checked="" type="checkbox"/>
はっすいざい・ゆうやく・そこみがき・はんぱいじゆんび	<input checked="" type="checkbox"/>

たんとうしやから	サイン
○ よかったこと ① じかんが じかんが できました。	②
② ほうこくが できました。③ しごとのみ しごとのみ できました。	
△ つぎにがんばること こまっ せんせいに おはなし するとき、こえを たして みましょう。	

販売活動の振り返り		12月12日(木)	
1 販売場所：大船渡 - 中			
2 時間： 10時15分～ 11時30分			
3 販売した野菜：さつまいも 大根 さといも 長ねぎ			
4 総合反省 (○ ×)			
身だしなみ	<input type="radio"/>	明るく元気に笑顔	<input type="radio"/>
言葉づかい	<input type="radio"/>	商品は丁寧に	<input type="radio"/>
礼儀 (あいさつ)	<input type="radio"/>	自分の仕事は	<input type="radio"/>
5 販売する前の気持ち 販売する前は、とても、きんちょうしていました。			
6 上手くできたこと、ほめられたこと 笑顔でお客さんに商品をわたすことが出来ました。			
7 気を付けたこと、心掛けたこと もっと積極的に、あいさつをしたいと思います。			
8 つぎにがんばること 積極的にあいさつをしたいと思います。			
点数	100	理由	笑顔でお客様に商品をわたすことが出来
9 感想 販売する前は、きんちょうしていたけど、笑顔でお客さんに、いいねい商品がわたせたのでよかったです。完売できて、うれしかったです。			
10 先生から			

4 寄宿舍

〈研究テーマ〉 寄宿舍生ひとりひとりが、成長を感じられる棟行事活動
～ 適切な目標設定・共有と、その振り返り ～

(1) テーマ設定の理由

一年次においては、全校研究の主題である“振り返りの充実”について、「棟行事活動」で実践することとし、一昨年度まで取り組んできた「生徒の主体性を伸ばすための取り組み」を継続しつつ、コロナ禍で制限されてきた行事活動を再開・充実させていくことを目標に取り組んできた。

二年次である今年度は「一つ一つの活動において目標を設定し、それを生徒と共有して進めるというところまでは難しかった。」という一年次の反省から、テーマを変更せず引き続き棟行事活動において目標設定・振り返りを充実させる実践に取り組んだ。

(2) 令和5年度の研究

ア 実践の内容と方法

コロナ禍により生徒はもちろん寄宿舍指導員においても、これまで蓄積されてきた行事活動のノウハウが失われたり、見直しの必要があったりしたことから、棟単位での実践とし、実態に応じて柔軟な取り組みができるようにするとともに、職員間でも意見を出し合って進めることを通して、コロナ後における行事・余暇活動のノウハウの再構築やブラッシュアップを目指した。

各棟での実践としたことから、寄宿舍全体としては大きく3点を確認して進めた。

- ① 生徒の主体性を引き出すような手立てを検討すること
- ② 一年間の見直しをもち、複数回の行事を計画すること
- ③ 行事ごとに振り返りを行い、次の活動にできる限り活かすこと

イ 成果と課題

【成果】

・主体性の伸長と経験の拡大

前回の行事の反省をもとに、次の行事で変化や工夫を加えようとしたり、皆に楽しんでもらえるように自宅で準備をしてきたりするなど、生徒が主体的に活動する様子が数多く見られた。そのような活動が難しい生徒でも、食事の内容を自分で決めるなどの意思決定ができた等、生徒それぞれに応じた主体性の成長がみられた。

・棟行事活動の充実

棟ごとでの実践としたことで、活動内容や方法などを柔軟に選択・変更することができた。そのことにより生徒から多様な意見が出やすくなり、活動の幅が広がった。コロナ禍により行事の経験が乏しかった現在舎生にとって、他の棟の行事も含めて様々な行事・余暇活動があると知ることができたことや、自分自身が実際に行事の企画運営をする経験は、今後の生活に繋がっていくと考えられる。

【課題】

・目標の設定と共有

年間の大きな目標であった「主体性」「振り返り」「達成感」については、前述の通り概ね達成できたと考えられるが、一つ一つの活動において目標を設定し、それを生徒と共有して進めるというところまでは難しかった。

(3) 令和6年度の研究

ア 実践の内容・方法

昨年度と同様に、各棟の実態を重視して実践を積み重ねることとしたが、今年度はワークシート（棟行事計画書）を統一し、その中に目標設定や振り返りの項目を設けて生徒・職員への意識付けを図った。どの棟も昨年度とは生徒の実態が大きく異なる状況であったため、研究方法については以下の5点を新たに“重点項目”として設定し直した。（①②は昨年度から継続、③～⑤は改善もしくは追加事項）

- ① 生徒による主体的な「棟行事活動」を研究領域とし、その充実を図ること。
- ② 生徒・職員個人を対象とした研究ではなく、“寄宿舍・棟全体としての研究実践”を推進すること。
- ③ 2年次のまとめに向けて、研究日における全体会の時間を増やすこと。
- ④ 棟行事を計画する際には目標を設定し、その評価基準も示すこと。また、このことについては生徒と共有して進めること。
- ⑤ “棟行事計画様式”について、今年度は統一したものを利用すること。（別紙1～3）

イ 成果と課題

【成果】

- ・目標設定と振り返りの効果およびそれによる活動の充実
事前に目標を確認・共有することによって意識化され、“頑張ること”のポイントが明確になった。経験を重ねることによって、自分のできそうな係を選択して目標を設定することができるようになってきている様子が見られた。事後の振り返りにも有効で、達成感を感じることができ前向きな振り返りが行われた。そのことにより、次回につながる意見も多く出され、余暇の充実につながった。
- ・生活経験の拡大と主体性の伸長
昨年度から引き続いてのテーマ設定だったことによる積み重ねから、寄宿舍生のさらなる成長が見られた。買い物活動などによる経験の拡大はもちろん、棟の行事を寄宿舍全体へ広げた活動を希望する言動や、「次は自分がやってみたい」「今度は〇〇がしてみたい」など、主体的に活動を行っていかうとする姿が見られた。また、これらの言動が個別の指導計画の目標設定とリンクすることも多く、双方の充実が図られた。

【課題】

- ・行事の企画や運営に関する経験の不足
行事の運営や係分担など実行段階において、主体的ではあるものの積極的でない様子も散見された。また、ゲーム等のアイデアやイメージを膨らませての話し合いが難しい場面もあった。経験や、それによる自信がまだまだ不足していると感じた。
- ・寄宿舍生の減少と利用の多様化
寄宿舍の利用日にばらつきがあることにより、全員揃っての企画・運営が難しい棟があった。また、昨年度よりも寄宿舍生が大きく減少したことから、行事そのものの広がりや実行力を維持するのが難しかった。

(4) まとめ

2年間、“棟行事活動”をテーマに研究活動を行った。継続して取り組んだことで、少しずつではあるが寄宿舍生に行事の企画・運営する能力が身に付いてきていることを実感することができた。今年度改めて重点項目とした“目標設定と振り返り”は、寄宿舍生の達成感や自己肯定感を高めるのに効果的なものであった。また、“主体性”という一昨年度までの研究テーマについても継続することを意識して実践してきた。これまでの研究テーマと新しいテーマによる相乗効果は、コロナ禍で失われていた経験の再構築や行事のブラッシュアップに大きく役立つものであった。

来年度以降も、棟行事活動が寄宿舍生活や卒業後の生活を充実させるものであり続けるよう、寄宿舍全体としての取り組みや支援を継続していきたい。

棟行事をしよう！（1F北：男子）

1. 計画する行事について

行事名

1階北棟 外食

内容

「大衆食堂 まるふく」での外食

年度初めにラーメン外食に行くことに決めていたので、行きたいラーメン店をみんなで出し合い、その中から交通費や距離などを考慮してお店を決めた。

2. 目標（今回の棟行事で頑張りたい・できるようになりたいと思うこと）

『^{おとこ}外食のできる漢になろう』

家族との外食経験が少なく、注文や支払いを自分で行ったことのない生徒がほとんどだったので、今回の経験を活かして、自分で外食できる漢になれるようにこの目標とした。

○目標達成のために頑張ることは…（評価基準）

- ・外食に必要なことを覚える。
- ・外食を通して、今まで経験のないこと経験してできるようになる。
- ※自分で注文、一人で支払い、帰りのタクシーを呼ぶなど

3. 必要な物、準備すること

○外食に必要なと思うこと

- ・お金の準備 自分で払う（MS）
- ・マナーの確認 残さず食べる（KT）
- ・移動方法、経路の確認。（KS）
- ・帰りのタクシーの手配（KS）
- ・歩いて行く体力、体調管理。
- ・注文の仕方を知る
- ・楽しく食べるための楽しい話題を考える

4. 3のうち、自分たちでできそうなこと

- ・お金の準備をする。→財布を家から準備する。
- ・マナーの確認をする。→食事のマナー、公共の場でのマナー、交通マナーを考える。
みんなでマナーを出し合い確認する。
- ・移動方法、経路の確認をする。→タブレットを使って経路や時間を自分たちで調べる。
- ・楽しく食べるための話題を考える。→すべらない話を一人一つ考える。
- ・帰りのタクシーの手配をする。→タクシー会社を調べる。電話番号を調べる。電話する人を決める。

5. 反省、実際に行事をしてみようだったか？

○事前の準備や、実際に外食をしてみようだったか？

- ・外食に必要なことが分かった。
- ・事前にみんなで話し合ったマナーを守って外食できた。
- ・お店までの道をタブレットで調べて分かりやすかった。
- ・タクシーを呼ぶのは緊張したが、練習通りできた。（KT）
- ・注文を決めるのが難しかった。自分で注文するのは緊張した。（KT）
- ・自分で注文するのは簡単だった。（MS・MR）
- ・支払いはきちんとできたとし、店員さんとしっかりやり取りできた。（KS）

○目標『外食のできる漢になろう』は達成できたか？

- ・自分たちで外食に必要なことを話し合いながら進めた。
- ・外食に必要なことを知れて体験できた。イメージできた。
- ・次の外食の機会があれば、自分でできそう。

達成できた

6. 次回に向けて

- やってみようこと・がんばりたいこと、次回の担当に伝えようことなど
- 次の行事 カラオケ
- 寄宿舍でおやつを食べながらカラオケをする。

棟行事をしよう！（1F南：女子）

1. 計画する行事について

行事名

ハロウィン パーティー

内容

みんなで材料を決める。みんなで会場を準備する。仮装する。

2. 目標

「楽しい夕食会にする」

3. 必要な物、準備すること

- 食材を選ぶ
- 会場装飾
- ハロウィンのお菓子

4. 3のうち、自分たちでできそうなこと

- 会場準備、テーブル拭き
- 食材を買ってくる
- 電子レンジで「チン」、温め時間の確認
- 盛り付け

5. 個人目標

（今回の棟行事で頑張りたい・できるようになりたいと思うこと）

- F：食材の買い物する
- O：会場装飾をする
- N：盛り付けを頑張る
- S：テーブル拭き、ゴミ捨てをする

6. 反省

目標は達成できましたか？

F:マイヤでの買い物は、自分で食品を探すことが出来た。

O:場所を考えながら、きれいに装飾をすることが出来た。

N:先生に言われたとおり、きれいに盛り付けをすることが出来た。

S:

参加したみんなからの感想・意見など

冷凍食品は美味しかったし、おやつをもらえて嬉しかった。BGM もあって楽しい夕食会だった。夕食を準備できたのは、メッチャ良かった。

みんなで準備から後片付けまで協力してできたし、積極的に作業することが出来た。

7. 次回に向けて

やってみたいこと・がんばりたいこと、次回の担当に伝えたいことなど
ダンスパーティー、たこ焼き・お好み焼き会、パンケーキおやつ会

棟行事をしよう！（2F南：男子）

1. 計画する行事について

行事名

「めざせ完食突破 ~おやつ会を楽しもう~」

内容

- ・おやつを食べる(じぶんでえらんでかう)
- ・デザートを食べる

2. 目標（今回の棟行事で頑張りたい・できるようになりたいと思うこと）

- ・ひとりで買い物に行く! NR → ◎
- ・ひとりでマイヤに行って買い物をする! → 体調不良でナシ
- ・ケーキを注文する! MR → ◎
- ・自分でほしいものをえらぶ! NS → ◎

目標達成のために頑張ることは…

- ・安全に気をつける → ◎
- ・困ったら、店員さんに聞く → なし

3. 必要な物、準備すること

- ・財布
- ・好きな飲み物、おやつ

4. 3のうち、自分たちでできそうなこと

- ・買い物
- ・デザートを選ぶ

5. 反省

目標は達成できましたか？

- ・できました!(2.のとおり)

参加したみんなからの感想・意見など

- ・また買い物に行きたい!
- ・またおいしいものを食べたい!!

6. 次回に向けて

やってみたいこと・がんばりたいこと、次回の担当に伝えたいことなど

- ・カラオケ!!!
- ・映画を見る
- ・もちつき
- ・お弁当

VI 研究のまとめ

児童生徒が「できた」「わかった」と感じられる授業づくりをするために、普段の授業で行っている「学習の振り返り」に焦点を絞って2年間の研究を進めた。

小学部では、生活単元学習の行事単元を一つの授業と捉え、事後学習の改善を行った。中学部、高等部では作業学習の中の学習の振り返りに焦点をあて、反省会のもち方や作業日誌の様式の見直しに取り組んだ。寄宿舎では、棟行事について生徒とともに計画し、振り返る活動の充実に取り組んだ。

各学部・寄宿舎で取り組んだ研究内容は異なるが、児童生徒の「できた」「わかった」の姿を明確にし、適切な目標設定と「学習の振り返り」を充実させることから、児童生徒が「できた」「わかった」と感じられる授業に近付けることができた。その結果、次の授業で「できたこと」「わかったこと」を活かそうとする姿や、授業以外でも「できたこと」や「わかったこと」を表現しようとする姿が見られるようになった。「いわての授業づくり3つの視点」の中から視点3：「学習の振り返り」に視点を置いた研究テーマにしたことで、視点1：「学習の見通し」、視点2：「学習課題を解決するための学習活動」とのつながりが大切であることを再確認することができた。

一方で、児童生徒の「できた」「わかった」の姿の捉え方の難しさや、実態差のある集団の中での学習の振り返りなどが課題として上げられた。

2年間の成果と課題を基に、今後も「学習の振り返り」を大切にした授業づくりをしていきたい。

※各学部で改善した作業日誌や振り返りシートなどは研究部のフォルダにまとめてありますので、必要に応じてご利用ください。

「いわての授業づくり3つの視点」

視点1 学習の見通し

■児童生徒の姿■

★学習課題（学習問題）を設定し、学習のゴールを見通す

- ・この時間で、何ができるようになればよいか、何がわかればよいかをつかんでいる。
- ・課題が、自分にとってどのような意味(役に立つ、楽しいなど)をもつのかを理解している。

★学習課題（学習問題）の解決に向けて、学習内容を見通す

- ・既習内容を用いて解決する場合、どの既習内容を活用すればよいかを確認している。
- ・既習内容を発展させて解決する場合、どの既習内容と関連付ければよいかを予想している。
- ・新しい知識や技能を必要とする場合、先生や友達の説明などにより解決方法を理解している。

★学習課題（学習問題）の解決に向けて、学習プロセスを見通す

- ・学習プロセスを形態、活動内容、時間などで捉え、どのように学ぶのかを理解している。

【指導の留意点】

- ◎児童生徒一人一人が、自分の学習課題（学習問題）として捉えることができるように工夫する。
- ◎身に付けさせたい力、学習活動、時間内に解決できることを意識した学習課題（学習問題）とする。
- ◎指導者が、学習課題の解決に取り組んでみた上で、学習内容や学習プロセスなどを構想する。

視点2 学習課題(学習問題)を解決するための学習活動

■児童生徒の姿■

★学習課題（学習問題）を解決するために学習活動をする

- ・「学習の見通し」に沿って、主体的に学習している。
- ・思考方法や表現方法、語彙や用語などを理解し、その時点での自分の考えをまとめている。
- ・自分の考えをもって、ペアやグループ・全体での学習に臨み、自分の考えを発表したり友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりしている。
- ・わからないことは、自分で調べたり友達や先生に質問したりしている。

★一人一人が学習課題(学習問題)を解決する

- ・学習課題について、協働的な学習を通して深まったり広がったりした内容を、理由や根拠がわかるように記述したり話したりして、一人一人が自分の考えをまとめている。

【指導の留意点】

- ◎学習課題（学習問題）を解決するための手立てや視点、学習活動の方法について具体的に指導する。
- ◎学習課題（学習問題）を解決するために、主体的・協働的な学習展開となるように工夫する。
- ◎児童生徒一人一人が、身に付けるべき力を確実に身に付けることができるような学習活動にする。

視点3 学習の振り返り

■児童生徒の姿■

★学習内容を振り返ったり、学習の成果を実感したりする

- ・授業を通して、できるようになったこと、できなかったこと、わかったこと、わからなかったこと、興味をもったことなどについて、自分の言葉で説明している。
- ・評価問題を解いたり身に付いた力を確認したりして、学習の成果を実感している。

★学習プロセスを振り返ったり、協働的な学習活動の良さを実感したりする

- ・どのような学習プロセスによって自分がどのように変容したのかなどについて、自分の言葉で説明したり、「友達から学ぶことができた」など、学習活動の良さを実感したりしている。

【指導の留意点】

- ◎学習の見通しで見通した、ゴールや学習内容、学習プロセスに照らして、振り返られるように工夫する。
- ◎必要に応じ、児童生徒の自己評価・相互評価、評価問題、教師の評価を適切に位置付ける。
- ◎児童生徒一人一人が自分の学習について、達成感や有用感を自覚できるように工夫する。